

個別施策

- D1-1 温室効果ガスの排出を抑制する緩和策(排出削減)と気候変動の影響に対する適応策を推進します
- D1-2 再生可能エネルギーの利活用と省エネルギーを促進します
- D1-3 緑あふれるまちづくりを進めます

ア 施策の目的

市民・事業者・行政等、すべての主体が、低炭素社会の実現に向けて着実に取り組んでいる。

イ 成果指標 (「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標)

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
市域から排出される温室効果ガスの排出量 【効果指標用】※1	2,178 千t -CO ₂ (24年度)	↓ 目標値	1,948	1,890	1,832	1,775	1,717
		↓ 実績値	2,319	2,507	R2.7 算出 予定		
		↓ 達成率	81.0%				
次世代自動車の普及率 ※2	5.3% (25年度)	↑ 目標値	9.7	11.1	12.6	14.0	15.5
		↑ 実績値	9.4	10.7	R2.3 算出 予定		
		↑ 達成率	96.9%	96.4%			
市役所から排出される温室効果ガスの排出量 【効果指標用】 【補助代替指標】	74,008 t-CO ₂ (26年度)	↓ 目標値	70,102	68,149	66,196	64,243	62,290
		↓ 実績値	81,573	92,876	84,710		
		↓ 達成率	83.6%	63.7%			
住宅用太陽光発電設備の普及率 【補助代替指標】	8.3% (26年度)	↑ 目標値	12.4	14.5	16.6	18.6	20.7
		↑ 実績値	9.8	10.2	10.8		
		↑ 達成率	79.0%	70.3%	65.1%		

※1 平成30年度実績値は2年遅れの令和2年7月算出予定のため、補助代替指標として市役所から排出される温室効果ガスの排出量【効果指標用】を記載した。

※2 平成30年度実績値は1年遅れの令和2年3月算出予定のため、補助代替指標として住宅用太陽光発電設備の普及率を記載した。

ウ 審議会における施策推進に向けた提案

- 低炭素社会の実現に向けて、具体的に何をすればいいのかわからないというのが現状なので、エコライフや4Rといった取組みのアピールをする方向性がかえっていいのではないかと。

エ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 施策の目的を一番表している成果指標は温室効果ガスの排出量であるので、それ以外の補助指標は必要だろうか。遅れて数字が出るということだが、次世代自動車や太陽光発電の普及率をあえて指標とすべきか。
- 指標としては、温室効果ガスの排出量とそれに関する施策の市民の認知度という2つの比較が分かりやすいのではないか。
- 個別施策（D1-2 や D1-3）の事業が、大きな目標である基本施策とうまく関連していないように思う。次期計画では、個別施策の立て方をもっと検討したほうがよい。